

活動名称 (40字以内)	水循環・水資源研究短期体験		
団体名等	生産技術研究所 沖研究室		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動	募集人数	<input checked="" type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動		2 人
	<input type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input checked="" type="checkbox"/> 研究室体験活動			
参加資格等	学部学生		
活動期間	2019年8月 ~ 12月 5ヶ月間	主な活動場所	駒場II生産技術研究所or 本郷第2本部棟
目的	一定期間研究室で教員・大学院生等と共に活動し、課題の設定からプレゼンテーションに至る研究リテラシーを身につける。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>沖研究室はグローバルな水循環と世界の水資源、水の安定同位体比と古気候、気候変動の影響評価と適応策、アジアモンスーン変動と食料生産、仮想水貿易とウォーターフットプリント、水環境のリモートセンシングなどに関して幅広い研究活動を繰り広げています。</p> <p>本プログラムでは受講希望者の都合を考慮し2週間から3~5ヶ月程度の期間で、ある程度まとまった研究に取り組んでいただきます。課題設定、問題の切り分け、文献の探索とレビュー、資料の収集、解析/実験ツールの整備、試行錯誤、結果のとりまとめ、発表といった一連の流れを実際に体験することで、研究リテラシーの基礎を身に付けていただけるものと思います。そうして得られる経験は、理系文系を問わず、研究者にならずとも社会に出て新たな課題に挑戦する際に必ずや役立つはずです。</p> <p>地球規模の水循環の精緻なシミュレーションや多種多様膨大な地球観測衛星データの解析、野外でのフラックス観測や場合によっては海外調査、あるいは社会調査に基づく統計解析など、対象も手法も課題解決に応じて選択することが可能です。最終的には学会の講演会で発表できるレベルを目指しましょう。これまでですと、成果を投稿して学術論文として発表されたり、受講者による学会発表が優秀講演論文賞をもらったりした例もあります。</p> <p>基本は1~2週間に1度の担当教員との30分~1時間程度の面談で研究体験を進めていきます。</p> <p>【参考図書】 『水の未来—グローバルリスクと日本—』(岩波新書、2016年)、『東大教授』(新潮新書、2014年)</p>		
備考	特記事項なし		
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)	その他*特記事項は以下に記載	
	交通費 なし 円 宿泊費 円 () 円 () 円 計 0 円	奨励金額 なし 円	
ウェブサイト等	生産技術研究所 沖研究室: http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/indexJ.html		